

# 彩の国 企業探訪

## 株式会社 三響フルート製作所

フルートの専門メーカーとして、50年余りの業歴を誇る三響フルート製作所。「いい音は、確かな技術と人の手からしか生まれない」という信念のもと、日々丹念にもものづくりに励んでいる。

今回の取材では、フルート奏者の柳原聡美さんにご協力を頂き、久蔵 豊 社長にインタビューをしました。

### 音と手作りへのこだわり

柳原聡美さん（以下、柳原） いま社長のご案内で、製造工程をじっくりと見学させて頂きました。たくさんの工程を経て、フルートが出来上がることを実感しました。

久蔵 豊 社長（以下、社長） 当社では、金属の溶解や、パーツの金型作り、メッキ作業までも社内で一貫してやり遂げています。私どもが納得できるクオリティを実現するためです。

柳原 金属のパーツを削ったり磨いたり、お一人お一人の入念に手作業されている姿が印象的でした。

社長 すべての部品が音に影響します。何一つおろそかにできません。

ピンセットでつまみ上げるような小さな部品さえも、芸術品のような美しさに仕上げています。技術、情熱、職人としての誇り。そのすべてを惜しみなく注いでいるのです。

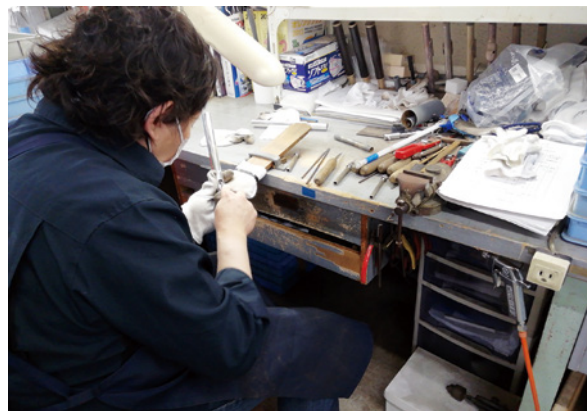
先程ご覧頂きましたが、タンポ（管体の穴を確実に塞ぐために、キーの裏側に取り付けられるパッド）も、フェルトに革を巻く昔ながらの製法です。手間はかかりますが、生産性を追求すると必ず何かが失われてしまいます。

どのやり方が正しいという訳ではありませんが、SANKYOのフルートはそういうところに拘り続けています。

柳原 社長ご自身も、長く製造に携わっていらしたのですね。



プレス工程で造られるパーツの数々



頭部管の吹き口の仕上げ加工

**社長** 私は、25年ほど製造現場にいました。管理職になって色々目配りはしましたが、すべての作業を出来るなどということはありません。それぞれが高い専門性をもって取り組んでいます。

今でも私が作り手として続けているのは、木管フルートです。管体は“グレナディアラ”という木を何年も自然乾燥させたものです。木の柔らかな音質と深みを味わえます。

### 多彩なラインナップ

**柳原** SANKYOのフルートには、いろいろな機種がありますね。

**社長** 当社は月間210本のフルートを製造しています。本数がいちばん多いのは、吹奏楽部に入った中学・高校生向けです。吹きやすさを大切にしつつ、音色との最良のバランスを実現しました。最高機種と変わらない緻密な手作業で組み上げていますから、自信を持ってお勧めします（頭部管銀製“Etude”）。

そして、本格的にフルート演奏に取り組まれる音大生の方は、繊細な表現力を磨くために機種をアップグレードされます。また、中高年になって趣味として再び始められる方は、皆さんそれぞれこだわりをお持ちです。繊細かつダイナミックな響き、クリアで芯のはっきりとした音、柔らかで深みのあるニュアンスの表現などなど。

**柳原 聡美**  
フルート奏者



▶ 岐阜県高山市出身。10歳よりフルートを始める。桐朋学園大学卒業・同大学研究科修了。ルーマニア国際コンクールなど多数の入賞歴。本年5月には、東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会に出演。クラシックから、ジャズ、ポップスなど幅広いジャンルで、演奏活動を行っている。

フルートと演奏者との出会いは、長いご縁の始まり。心ときめく貴重な瞬間です。好みによって、例えば、管体は金製でキーは銀製・銀メッキ仕上げにするなど、素材の組み合わせによるバリエーションも豊富です。SANKYOのラインナップを是非お試しください。

**柳原** アルトフルート、バスフルートやピッコロなども人気ですよ。

**社長** 最近は、フルート愛好家だけで曲を演奏する場面が増えています。フルートオーケストラで50人もの奏者が一緒に奏でる音は圧巻です。そんな場面では、フルート族の中では希少なこれらの機種が活躍しています。



Hand-madeSTの18K Gold (上)と24K Gold (下)



**柳原** 最近は、生活スタイルが変化しています。フルートのユーザーにも、変化がありますか。

**社長** コロナ禍で、学生のクラブ活動には厳しい制約がかかり、吹奏楽部の部員数が減っている学校も多くみられます。将来を担う若い世代が、最初の一步の機会を逃がすことのないよう願っています。

その一方で、社会人の方で、在宅時間が長くなり、練習時間を取れるようになったので、フルートを始めてみようという方が増えています。

数多い楽器の中で、フルートは持ち運びが手軽なので、レッスンに通うにも便利です。また、サクソやトランペットなどの楽器に比べると、大きな音ではないので、日中ならば自宅で練習しても近所迷惑になることは少ないでしょう。

### ゴールドの三響

**柳原** 御社が創業されたのは1968年。もう50年以上経つのですね。

**社長** はい。「良いフルートを創りたい」という一心で、総勢7名の腕利きの技術者だけで会社を立



吹き比べをする柳原さん



ゴールド製 Hand-madeSTを手渡す久蔵社長

ち上げました。経営者が技術者であることの強みは、手間やコストを惜しむことなく存分に研究できることです。「良い音」のためならば、製品の開発・製造に時間がかかっても理解されるということです。

**柳原** 海外にも SANKYO のファンが多いそうですね。

**社長** 20年程前に一国一代理店制度を導入してから、海外向けの出荷が増えました。現在は、海外38か国に代理店を設けており、国内向けよりも、海外向け出荷の方が圧倒的に多くなっています。

当初は苦勞もありましたが、現物のフルートを持ち込んで、誠心誠意アピールしたことが効を奏したと感じています。まさに営業努力の賜物です。

**柳原** いまゴールドのフルートを試奏させていただきました。

**社長** 14 K ゴールドを手掛けて以来、「ゴールドの三響」と呼ばれるようになりました。1995年には、世界で初めて、24 K ゴールドのフルートを完成させました。硬度の違いなど難しさがありましたが、職人の感覚で調整を繰り返した成果です。

最近では金価格が高騰しているため、一段と値が張ってしまっていますが、この重厚感はゴールドならではの魅力です。

**柳原** 先に吹かせて頂いた“Etude”（頭部管銀製）も、丁寧な作りで初めて持つ楽器として申し分ないのですが、やはりゴールド製は、明るく華やかで、しっかり安定感がありますね。

## 良い音を求めて

**柳原** 音の良いフルートを作るためには、何が大切ですか。

**社長** それは、何よりもまず、演奏者の方々からご意見を頂戴することです。良い音というのは、漠然としていて人に伝えることがなかなか難しいものです。言葉にならないくらいの阿吽の呼吸でコミュニケーションを取りつつ、微妙な調整をしていきます。

理想を言えば、完成する前に一旦暫く試奏をして頂き、ご意見を踏まえて、例えばカップの開き具合など、微修正させて頂ければ、最高の仕上がりになります。

**柳原** 奏者とのコミュニケーションを大切にされているのは、とてもありがたいことです。自分が



切削、研磨、組立の作業風景



久蔵社長と柳原さん

求めている音、楽器を通して表現したい音をお伝えして、それが実現できたら素晴らしいことです。

**社長** それと、私は、200人以上入るようなホールの後ろの席などに座って、音がしっかり届くかを確認めます。小さな部屋では分からないのですが、ホール全体に響きわたる音の良し悪しで、真価が問われるのです。

フルートを演奏したいという方がますます増えるよう、吹き手の方には魅力的な演奏をしてほしい。そのために作り手としてできることに全力を尽くす。社員一同そんな思いで、毎日の作業に取り組んでいます。

**柳原** こんなにたくさんの人手がかかっていることを目の当たりにして、自分のフルートにさらに愛着が湧きました。本日は、どうもありがとうございました。

## 企業概要

### 株式会社 三響フルート製作所

<http://www.sankyoflute.com/>

代表取締役社長：久蔵 豊

1954年生まれ、1975年入社、2010年社長就任

■設立：1968年7月

■事業内容：フルートの製造および修理、指導

■従業員数：78名

■本社・工場：狭山市水野 993-9 TEL：04-2959-7245

■フルート工房（修理、試奏、レッスン、ショッピング）：

東京都豊島区南池袋 2-27-2 5F TEL:03-5960-5750

■武蔵野銀行取引店：新所沢支店

